

神川小学校自己評価 職員中間報告 【アンケート実施日：令和5年7月】 評価平均 A：3.0以上 B：2.4～2.9 C：2.3以下

学校教育目標	めざす子どもの姿（中期的目標）	
考える子 心の美しい子 たくましい子	1 一人で、みんなで考えられる子 2 自他の良さを感じられる子 3 1人で、みんなで心と身体をきたえる子	各項目の最後に、2学期に取り組んでいくことを_____で記載してあります。

今年度の重点目標		評価平均	成果と課題
①	学ぶ楽しさが味わえる授業	2.6 B	①外へ出かけたり、畑や野菜の収穫をしたり、体を動かして実際に触ったりすることで感じたことや思ったことを言葉にする活動もできた。今の活動の継続、まとめをしていく。年度途中から始まる活動については、しっかりと計画をしていく。 ②普段の授業の中で、しばらく制限のあったグループ活動や発表などを中心とした授業を作りたい。しかし、3年間の学習形態の変更は簡単ではないため、やり方だけでなく、座席の配置などにも工夫をしていく。 ③外部講師をお迎えし「身体みがき体操」を実施できている。
②	みんなとつながる活動	3 A	昨年まで中断していた、対面での養護学校との交流会が再開できた。地域の方を講師にした授業やクラブ活動も開始することができた。 各学年・学級とも体験的な活動を増やし、地域素材を生かした学習・足を運んで自分の目で見て、感じて、触れる学習を取り入れていき、楽しさを感じ、人と触れ合うことをしていく。
③	心と身体を育む体験・交流	2.7 B	〇黒板には、学習の流れが分かりやすいように板書をするように心がけ、貼るだけのマグネットも用意した。板書と大型テレビ、タブレット端末、ホワイトボードなどの有効的な使い方については、より良い方法を探っていく必要がある。 ●まとめの場面で、ふりかえりの時間がとれないことがあり、課題が残った。 どのクラスでもマグネットを使い、神川スタンダード化された授業を作り上げていきます。特にふりかえりの時間の確保を意識していきます。
学校教育	学習の基本	①「神川スタンダード」全学級で大切に学習の基本の実行	2.7 B
	学習環境	②「学習のUD化」子どもの学びやすさの具現化（「個に合った学びの場の提供」「多様な学習形態・座席配置・ペアグループ・複数教員・教科担任制による児童指導」を含む）	2.7 B
	ICT端末の利用	③「一人1台端末」自ら調べ・自ら整理し学ぶ子への支援ツールの活用をしているか。	2.4 B
	多様な動きの習得	④「身体みがき体操」「運動の場づくり」	2.6 B
	その他	⑤スタートカリキュラム、登校指導、MIM、読みを先行した学習実践 ⑥「学びのとびら」活動紹介	2.4 B
生活指導	あいさつが響き合う学校	⑦「あいさつ」「なかよし学年」を中核に据えた児童会活動の実践	2.6 B
	学級づくり・仲間づくり 「神川っ子」「なかよし週間・月間」 子ども理解	⑧考え、議論する道徳 ⑨週の初めに、みんなで体を動かし遊ぶ ⑩「なかよし週間・月間」重点的になかよし・自他の良さについて考え深める ⑪「相談ウィーク」子どもの心に寄り添う	3 A
学校連携	家庭との関わり PTA活動 SCとの連携	⑫保護者懇談会2回による情報共有 ⑬「メディア教育」「安全教育」持続可能で系統立てられた指導 ・メディアコントロールウィークへの協力、家庭学習・お手伝いの習慣化 ⑭主体的に取り組むPTA活動 ⑮早期発見、相談の充実	2.9 B
	地域とつながる奉仕・交流活動 社会に開かれた学校 ふるさと学習	⑯「国分寺史跡公園全校清掃」「上田養護学校との交流」等地域とつながる活動 ⑰クラブ、学習支援、読み聞かせ ⑱神川に学び 神川で学ぶ	2.7 B
研修	職員研修	⑲子どもの見方や関わり方・指導法・地域について主体的に学び合う ⑳児童理解の時間と対応策	2.9 B